

文化・芸術

「オリバー君」

1995年、水彩・紙
14.9cm×10.0cm

山口 晃 (1969年)

本作は、山口晃さんが東京芸術大学大学院修士2年の時、郷里桐生で開催した初個展の出品作です。1995年9月の1カ月間、本町通り沿いにあったギャラリー・ラベンダーで展示されました。出品目録によれば、本作のようなはがき大の水彩作品10点をはじめ、50号の油彩画まで28点ほどが展示されていたようです。

山口さんのメカニックなものや骸骨への関心がすでにこの時期から始まっていたことが見て取れます。豊かな描線から醸し出される小さく不思議な世界。見る者は自由なイメージが喚起されます。

気になるタイトルについては、このたび山口さんと本人にテキストを書いていただき展示室でご紹介しています。その中で山口さんは「たわむれ」という言葉を用いています。軽やかに鋭利、空間の妙、人ならざるたたずまいを巡りその隅々に目が奪われます。ぜひ展示室でご覧ください。

(小此木)

名画の扉

企画展「The日本・画一大川美術館
のコレクションを中心に」から

